

2018年度 第2回 定例研修会

日時：平成30年10月21日(日)
場所：秋葉原UDXギャラリーネクスト2
講師：土屋 賢司先生



齋藤 琢也 (群馬県)



平成30年10月21日(日)、秋葉原UDXギャラリーネクスト2にて第2回定例研修会が行われた。

まず、開会におきまして田中 譲治会長より挨拶があり本日のテーマである『オーラルスキャナー』について簡単に解説し、今話題のテーマに大変興味がある先生に多数参加して頂いた。

はじめに、会員発表で、須田 嘉行先生による『多数歯のインプラント治療におけるガイドドサージェリーの有用性 Smart Fusion を用いた審美領域の修復治療』という演題名で発表された。いつもながら、しっかりと治療計画を綿密に立案しており大変参考になる術式であった。

次に、角田 宗弘先生による『総合病院における要介護高齢者の歯科用インプラントの実態に関する看護師へのアンケート調査』という演題名で発表された。

この内容は、先日の大阪での第48回公益社団法人日本口腔インプラント学会にて角田 宗弘先生がポスター発表において、デンツプライシロナ賞を受賞された内容であった。総合病院に勤務されていないと情報が得られない内容で、インプラントに対する看護師さんの生の情報が得られる素晴らしい内容で

あった。次に、細野 拓生先生による『痛みスケール(NRS)を用いたインプラント埋入手術後疼痛評価』という演題名で発表された。しっかりとした統計を取りインプラントの埋入本数、埋入範囲、埋入部位、施術時間、骨造成処置の有無、男女差についてそれぞれ検討、考察を行っており大変参考になる内容であった。最後に、青柳 恵子先生による『インプラント埋入後にボーンアンカーブリッジ治療計画を変更した一症例』という演題名で発表された。

しっかりと治療計画を行い、ガイドドサージェリーを用いてインプラント埋入を行ったがショートインプラントがインテグレーションせずに脱落してしまい悩まれていたケースであった。WNインプラントに義歯による外力が加わった事が原因かもしれないと田中会長からアドバイスを頂いた様で、まだ治療途中の症例である為、今後の完成経過が聞けることを大変楽しみにしているケースであった。

その後、セレクトドドクターによるシンポジウムで、デジタルデンティストリーで大変著名な3人の先生に登壇していただいた。まずは、田中 譲治会長による『口腔内スキャナー時代の到来～少数歯の

第2回 定例研修会



みならずフルアーチそして3Dプリンター義歯への応用まで〜』という演題名で発表された。

いつも、拝聴している先生であるが現在の臨床でほとんどのケースにオーラルスキャナーで対応している時代になった事に大変驚き、これは未来の事ではなく現在の事で時代に乗り遅れない様、大変参考になる内容であった。

次に、草間 幸夫先生による『イントラオーラルスキャナーからのインプラントデジタルワークフロー』という演題名で発表された。

フルデジタル化による問題点とイントラオーラルスキャナーの操作方法について撮影方法による制度の違いやSTLデータはポリゴンデータでありオリジナルデータはサーフェイスデータでオープンシステム用のSTLデータは万能ではない事を教えて頂いた。

最後に、若井 広明先生による『オーラルスキャナーの臨床活用の現在』という演題名で発表された。

TRIOS3とSEREC3との違いを解説して頂き多くの先生が導入に迷っている中、大変参考になる内容であった。

今回の特別講演では、大変ご高名な土屋 賢司先生

を迎えまして『修復治療を成功に導く包括的チームアプローチ』という演題名で発表された。

審美治療の長期症例を多数拝覧させていただきエビデンスに裏づけされた審美的かつ機能的のみならず生物学的あるいは構造学的にも十分な精査とそれに伴う治療ステップを確実に消化しなければ補綴物の長期安定は望めないという事がよく分かる内容であった。また、プロビジョナルレストレーションの取り扱い方、BOPTコンセプト、各セクションにおけるエキスパートが各々知恵とスキルを出し合いチームで一口腔内を診ていくインターディプシナリアプローチがこれからの歯科医療には必要であると教えて頂いた。

大変充実した内容であり、もう少し時間をかけて拝聴したい内容であった。

定例研修会後の懇親会も大勢の先生に参加して頂き盛会にて終了した。

来年は、4月14日(日)に第1回定例研修会を予定しておりたくさんの会員先生に参加して頂き、また会を盛り上げて行きたい。